

福岡県漁業の特徴

筑前海区

海区特性

筑前海は響灘と玄界灘とからなる外海性の海域で、海岸線は比較的变化に富み、その一部が福岡湾、唐津湾などの内湾になっているほか、大島、玄界島など 10 余の島が点在し、海岸線の長さは 420km である。水深は沖ノ島周辺の最深部で 120m 程度であり、島や岬の部分が岩礁地帯のほか、海岸線の大部分は砂浜である。潮位差は最大で 2.2m 程度である。

漁業構造

筑前海の沿岸漁業は、漁船漁業、特に網漁業が盛んで、あじ・さばまき網や 2 そうごち網、ひらめ刺網といった大型のものから、磯浜建網や小型底びき網の小型のものまでである。また一本釣や延縄、海土・磯見の磯漁業も盛んで、回遊性の水産資源から定着性のものまで対象に多様な漁業が行われている。養殖は少なく、わかめが博多湾で、のり・魚類が唐津湾など限られた地域で行われている。

平成 4 年における漁業経営体数は 2,207、うちほとんどが漁船漁業である。生産量は約 2 万 6 千トンであり、生産額は 166 億円である。

本県の遠洋・沖合漁業は、博多漁港、戸畑港を基地としており、遠洋漁業は南方トロール及び以西底びき網漁業、沖合漁業は大中型まき網漁業を主体としている。遠洋・沖合漁業の漁業経営体数は 89 であり、生産量は 16 万トン、生産額は 286 億円である。

漁船勢力と漁港

昭和 31 年当時の漁船数は、3,809 隻であり、無動力船は、1,200 隻（31%）、3 トン未満の動力船が 2,041 隻（54%）、3 トン以上が 568 隻（15%）であった。

平成 4 年末現在の漁船総数は 3,835 隻で、規模別には無動力船 25 隻（0.7%）、3 トン未満の動力船 1,878 隻（49%）、3 トン以上が 1,932 隻（50%）と大型化が進んだ。一方、動力漁船数は過去 10 年で 784 隻も減少した。

筑前海は海岸線の変化に富み、半島や岬が発達し島嶼も多く、このため天然の地形を利用して造られた漁港が主で、かつては大陸との交通の要所として、また帆船航路の避難・寄港地としての役割りを果たしていた。

最近、漁業情勢の変化等から漁港の性格は、生産基盤であるばかりでなく、漁村生活の中核的な場としても重要性を増しつつある。また、漁業の沖合化によって第 4 種漁港（沖の島、小呂島）は、避難港、前進基地としての役割りが高まっている。

漁業振興の方向

多種多様な漁業資源の活用と都市との共存を図る都市型・都市近郊型漁業をめざしている。糸島地域：豊富な沿岸資源の生産基地と風光明媚な青い美しい海、大都市に近い地の利を活かした多角的な沿岸資源活用型漁業をめざしている。

福岡・粕屋地域：新鮮な天然魚を安定供給するとともに、大都市のメリットを最大限に活用した県民の多様なニーズに対応できる都市共存型漁業をめざしている。

遠賀・宗像地域：新鮮魚介類の都市への安定供給基地として、大型で高級な沖合性魚類を高度に利用する沖合資源利用型漁業をめざしている。

北九州地域：大消費地を抱えた地域の有利性を最大限に活かし、多品種の沿岸資源を有効に活用する観光ふれあい型漁業をめざしている。

有明海区

海区特性

福岡県地先は有明海の最奥部に位置する内湾性の海域であり最大 6m にも達する潮位差と、筑後川、矢部川などの流入河川の影響を受けて広大な干潟を形成している。海岸線は 47km で、すべて干拓堤防などの人工海岸である。水深は殆どが 15m 以浅で、底質は一部砂質の他、大部分は泥質地帯である。潮汐流が速く、流速は 2 ノットに及ぶ。

漁業構造

有明海の漁業は、のり養殖を中心に、採貝漁業、刺網漁業その他干潟を利用した漁業である。

発達した干潟には貝類や甲殻類が多く生息し、古くからアサリ、モガイ、アゲマキ等の採貝漁業やタイラギ対象の潜水器漁業、エビ、カニをとる刺網漁業など干潟を利用した多様な小型漁業が行われている。また、昭和 20 年代後半から干満差を活かして支柱式のり養殖が行われるようになり、30 年代末から 40 年代の大幅な漁場の拡張、養殖技術の進歩をえて、現在では日本におけるのり養殖の一大中心地となっている。

平成 4 年における漁業経営体総数は 1,968、うちのり養殖が 1,543 と 78%を占めている。生産量は約 5 万 4 千トンのうち 7 千トンが漁船漁業で、5 千トンが採貝漁業で占めており年変動が大きい。生産額は 203 億円で、うちのり養殖が 180 億円 (89%) と大部分を占めている。

漁船勢力と漁港

昭和 31 年当時の漁船数は、2,081 隻であり、無動力船は 398 隻 (19%)、3 トン未満の動力船が 1,573 隻 (76%)、3 トン以上が 110 隻 (5%) であった。

平成 4 年末現在の漁船総数は、3,553 隻で、規模別には無動力船 11 隻 (0.3%)、3 トン未満の動力船 1,568 隻 (44%)、3 トン以上が 1,974 隻 (56%) とのり養殖業の発展を背景に飛躍的に大型化が進んだ。

有明海は江戸時代から約 4,000 ヘクタールに及ぶ干拓が行われ、海岸線はすべて人工海岸であり、また海岸の前面は干潮時には干潟となるため漁港の殆どは筑後川、沖端川、塩塚川及び矢部川の河川内につくられている。

したがって漁船の出入港に当たっては、河川の湊筋を利用しなければならず、干潮時前後には出入港が不可能となり潮待ちを必要とするため、操業時間の制限を余儀なくされている。

漁業振興の方向

のり養殖業の活性化と網漁業、採貝漁業の栽培漁業・資源管理型漁業への転換を図り、干潟の周年利用を進めると共に、親水機能を高めることにより、干潟の機能を最大限利用した干潟高度利用型漁業をめざしている。

豊前海区

海区特性

豊前海は瀬戸内海周防灘に位置する内海性の海域であり、海岸線は比較的単調で、長さは109kmである。水深は、関門海域を除いて大部分は10m以浅である。海底は約千分の1の勾配でゆるやかに傾斜し、底質は水深5mまでは砂、砂泥、その沖合は平坦な泥底である。潮位差は最大4mに及び、干潮時には広い干潟を形成する。

漁業構造

豊前海の漁業は、浅海に生息する魚介類を対象に小型底びき網、小型定置網（柵網）、刺網、採貝の4つの漁業種が中心である。またのり養殖やかき養殖も行われている。

豊前海の沿岸は発達した干潟と砂泥質の海底を持つ浅海域であるため、魚介類の幼稚魚期の重要な生息場となっている。この特性を活かしてクルマエビ等の種苗放流に早くから取り組んでおり、全国に先駆けて栽培漁業を実施した、いわば栽培漁業発祥の地とも言える。

平成4年における漁業経営体総数は617、うち養殖業が88と14%を占めている。生産量は約6千トンで、このうち養殖業が1千トンを占めている。生産額は39億円で、うち小型底びき網が18億円（45%）、小型定置網6億円（16%）、海面養殖4億円（11%）である。

漁船勢力と漁港

昭和31年当時の漁船数は、1,021隻であり、無動力船は333隻（33%）、3トン未満の動力船が591隻（58%）、3トン以上が97隻（9%）であった。

平成4年末現在の漁船総数は1,233隻で、規模別には無動力船73隻（6%）、3トン未満の動力船876隻（71%）、3トン以上が284隻（23%）と大型化が進んだ。

豊前海の海岸線は比較的単調であることから、漁港施設はこの海域に流入する河川の河口付近につくられているものが多い。また、潮位差が比較的大きいため、干潮時には港内が干潟となり、漁船の出入港は潮待ちを余儀なくされることもある。

漁業振興の方向

多種類の小型魚介類という資源特性と地域開発により高まる商品化条件をいかした浅海高生産型漁業をめざしている。

北部地域：豊前海区の流通拠点として機能するとともに、住民の親水ニーズに応える都市近郊・蓄養殖型漁業をめざしている。

南部地域：栽培・資源管理、養殖業の推進により資源の増養殖を積極的に進め、漁業生産の増大を図る栽培増養殖型漁業をめざしている。

漁業経営体数・生産量・生産額

区分	漁業経営体数			順位		海面漁業・養殖業生産量			順位		海面漁業・養殖業生産額			順位	
	実数	構成比	対前年比	全国	九州	実数	構成比	対前年比	全国	九州	実数	構成比	対前年比	全国	九州
	経営体	%	%			1 000t	%	%			億円	%	%		
全国	175 980	-	98.0	-	-	9 078	-	92.9	-	-	24 398	-	95.6	-	-
九州	44 421	100.0	97.8	-	-	1 638	100.0	90.5	-	-	5 655	100.0	95.8	-	-
福岡	4 792	10.8	96.2	14	5	246	15.0	99.6	12	2	693	12.3	90.8	11	3
佐賀	3 680	8.3	95.6	20	6	86	5.3	88.7	27	7	298	5.3	86.4	27	7
長崎	15 048	33.8	98.7	2	1	723	44.1	87.3	2	1	2 012	35.5	97.1	2	1
熊本	7 451	16.8	99.1	5	2	127	7.8	97.7	24	5	630	11.1	99.2	13	4
大分	4 913	11.1	97.8	13	4	99	6.0	81.8	26	6	626	11.1	91.8	14	5
宮崎	2 127	4.8	97.1	27	7	177	10.8	93.2	18	4	487	8.6	112.5	16	6
鹿児島	6 410	14.4	97.3	9	3	180	11.0	91.8	17	3	909	16.1	93.7	7	2

資料：「漁業経営体調査」「海面漁業生産統計調査」

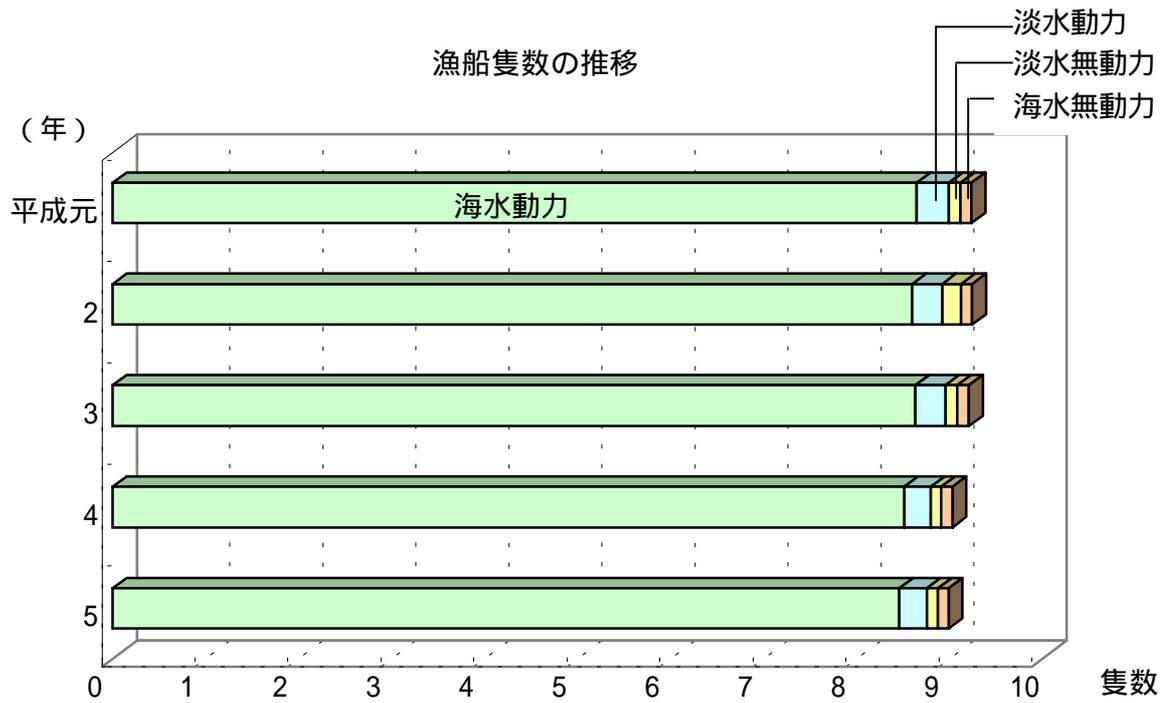
福岡県の海面漁業・養殖業の生産量・生産額の部門別年次別推移

単位(生産量：千t、生産額：億円)

区分	生産量					生産額				
	合計	遠洋漁業	沖合漁業	沿岸漁業	養殖業	合計	遠洋漁業	沖合漁業	沿岸漁業	養殖業
昭.62	365	259	23	45	38	819	421	55	196	147
63	393	270	26	48	49	886	411	69	211	195
平.元	367	263	15	43	46	802	378	27	208	189
2	283	182	15	41	45	705	287	34	235	149
3	247	136	14	42	55	763	263	41	240	219
4	246	148	12	36	50	693	257	28	220	188
対前年比(%)	99.6	108.8	85.7	85.7	90.9	90.8	97.7	68.3	91.7	85.8
構成比(%)	100.0	60.2	4.9	14.6	20.3	100.0	37.1	4.0	31.8	27.1

資料：同上

注：沿岸漁業は漁船規模20トン未満の生産量、生産額である。



(単位：1000 隻)

資料：福岡県漁船統計表

過去10年間の海区別海水動力漁船隻数の推移

年次	計	筑前		豊前		有明		
		指数	隻数	指数	隻数	指数	隻数	
昭和59	9,003	100.00	4,270	100.00	1,511	100.00	3,222	100.00
60	8,921	99.09	4,248	99.48	1,439	95.23	3,234	100.37
61	8,768	97.39	4,230	99.06	1,421	94.04	3,117	96.74
62	8,620	95.75	4,087	95.71	1,402	92.79	3,131	97.18
63	8,632	95.88	4,091	95.81	1,313	86.90	3,228	100.10
平成元	8,647	96.05	4,052	94.89	1,315	87.03	3,280	101.80
2	8,598	95.50	3,896	91.24	1,283	84.91	3,419	106.11
3	8,632	95.88	3,880	90.87	1,193	78.95	3,559	110.46
4	8,512	94.55	3,810	89.23	1,160	76.77	3,542	109.93
5	8,462	93.99	3,681	86.21	1,145	75.78	3,636	112.85

(注) 指数は、昭和59年=100